

県民アンケート調査の結果（概要）

令和 6 年 8 月 30 日

富山県危機管理局 防災・危機管理課

県民アンケート調査

【目的】

- ・ 能登半島地震発生時の避難行動や県民の防災意識の変化などを把握する
- ・ 県民自らに発災当日の行動を振り返り、確認を促すとともに、その結果を災害対応の検証に活用する
- ・ 住民がよりの確な避難行動がとれるよう、県地域防災計画をはじめ各種計画やマニュアルの見直しに繋げる

【調査概要】

- ・ 調査地域：県内全域
- ・ 調査対象：満18歳以上の男女
- ・ 標 本 数：3,000（層化二段無作為抽出法）
- ・ 調査方法：郵送調査（WEBによる回答も可）
- ・ 調査期間：令和 6 年 6 月17日～ 7 月21日
- ・ 設問数：50問
- ・ 回答数：1,708（郵送：1,164、WEB：544）
- ・ 回収率：56.9%

【設問内容】

能登半島地震時の避難行動等に係る項目（40問）	防災意識に係る項目（10問） （うちR4調査からの変化を見る項目 5 問）
・ 避難の有無と理由 ・ 移動手段（徒歩、車）と理由 ・ 情報の入手先 ・ 避難時の持ち出し品 ・ 避難所で困ったこと 等	・ 災害対策に関する意識 ・ 災害時の避難に関する意識

回答者の属性

（「N」は対象者数を指す。（以降同様））

問1 令和6年能登半島地震が発生したときのお住まいの市町村をお答えください。

(%)																	
N	富山市	高岡市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	南砺市	射水市	舟橋村	上市町	立山町	入善町	朝日町	県外	無回答
1,708	40.7	14.6	3.6	4.3	3.2	3.7	4.7	2.7	4.4	8.8	0.4	2.0	2.6	2.2	1.3	0.6	0.2

問2 令和6年能登半島地震が発生したときの年齢をお答えください。

(%)							
N	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
1,708	7.0	11.9	19.2	20.5	18.6	22.5	0.4

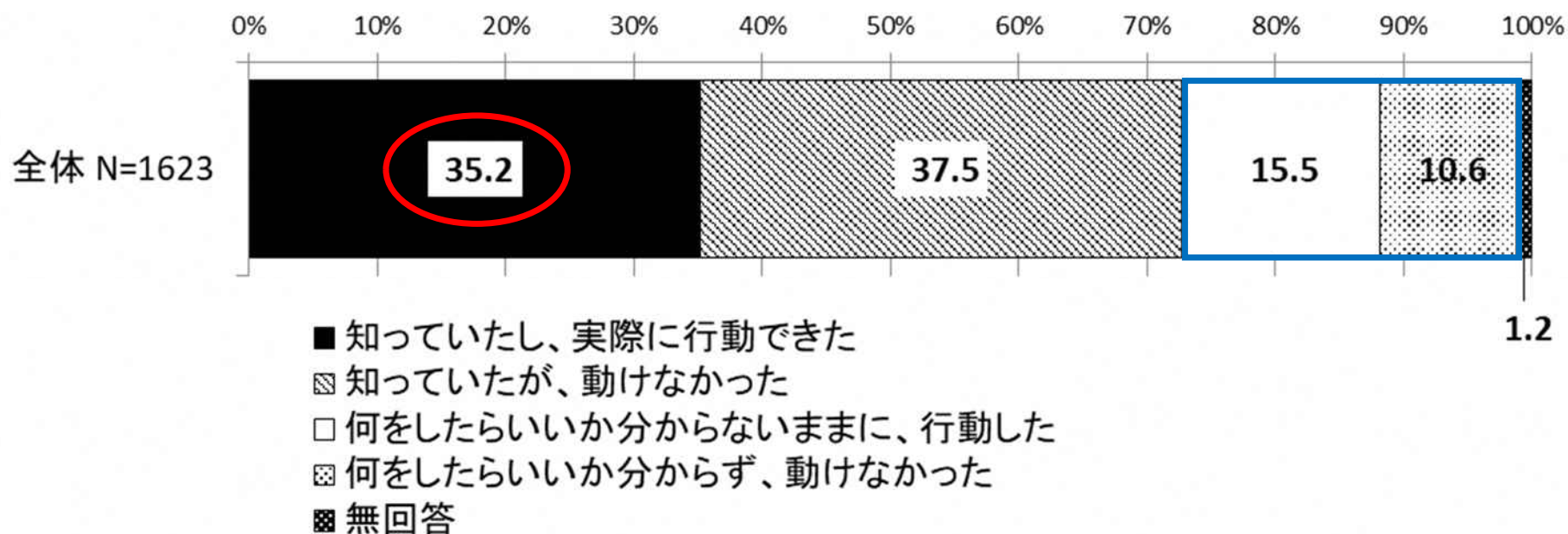
問3 性別をお答えください。

(%)				
N	男性	女性	その他	無回答
1,708	41.2	55.8	—	3.0

地震発生時に命を守る行動を取ることができたか

問 7

あなたは揺れている間、命を守る行動（机の下に身を隠す、ブロック塀から離れる等）を取ることができましたか。また、どのような行動を取ればよいか知っていましたか。

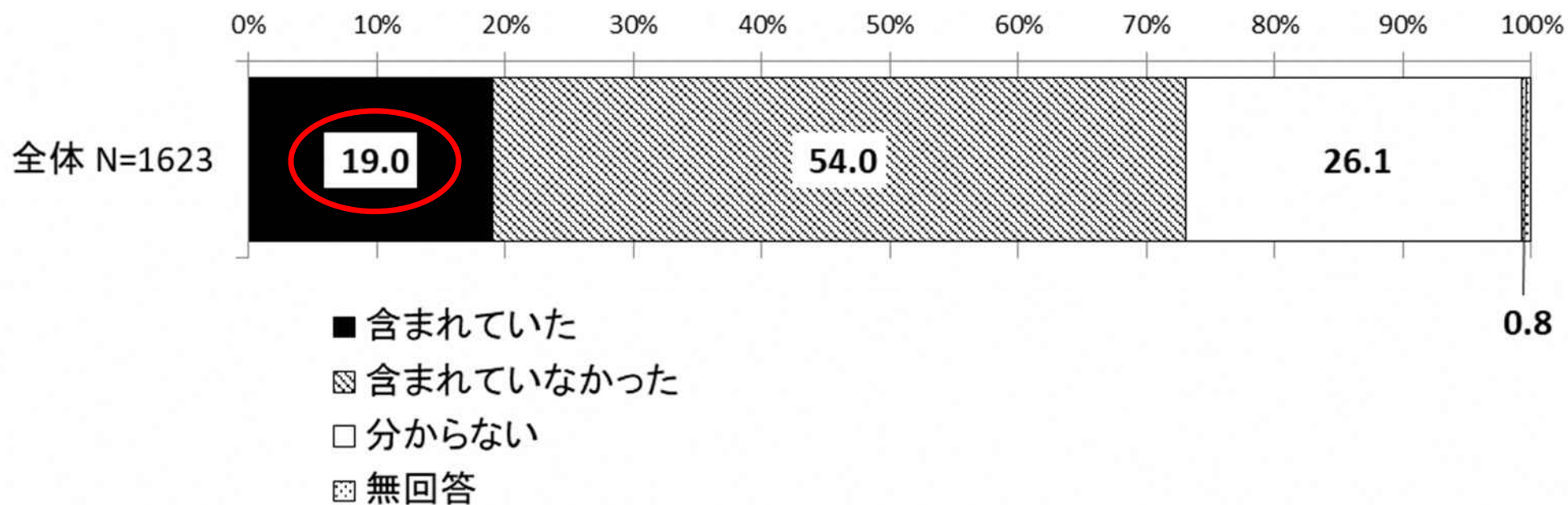


地震発生時、4分の1以上の方がどのような行動を取ればよいか分からなかった。

津波ハザードマップで避難が必要な地域等に含まれる場所にいたか

問 9

あなたがいた場所は、津波ハザードマップで浸水が想定される区域や避難が必要な地域に含まれていましたか。

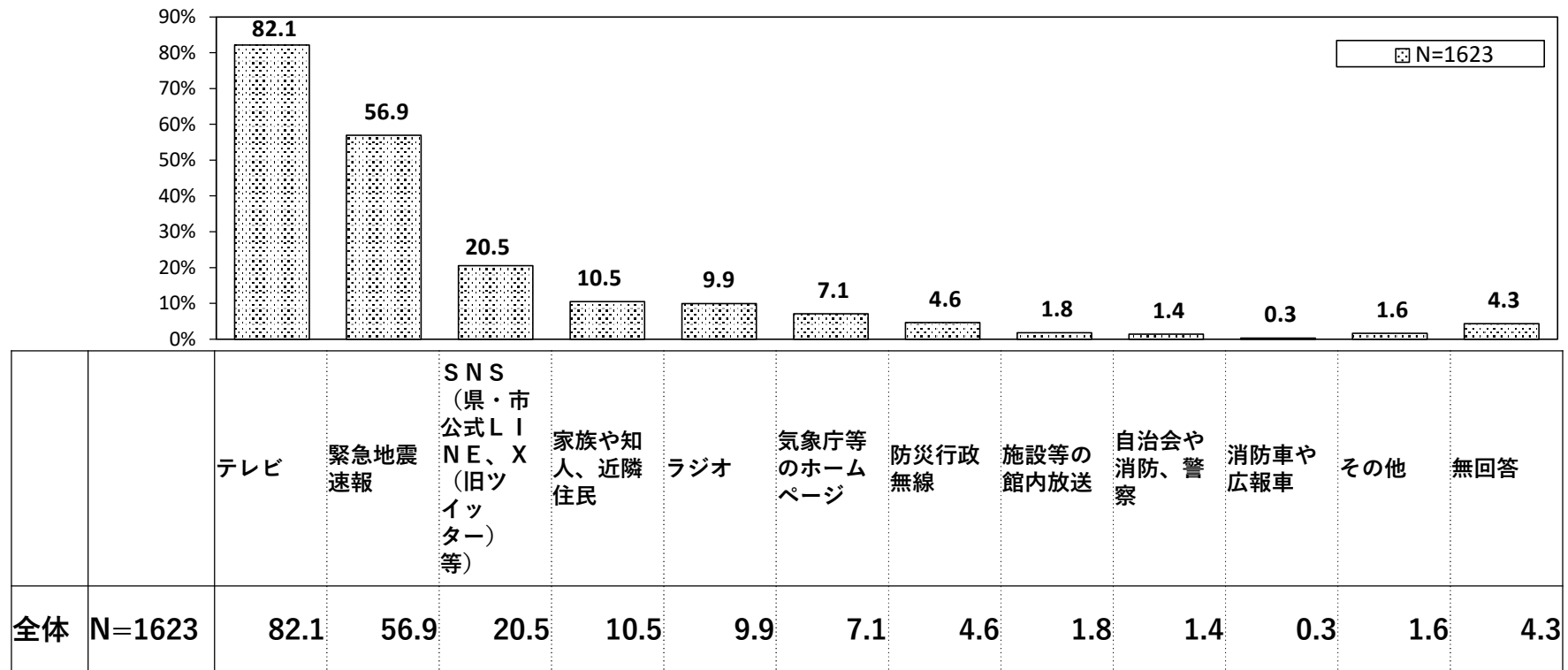


地震発生時に避難対象地域等に含まれる場所にいた方は、約 2 割だった。

地震や津波に関する情報源

問11

あなたは地震や津波に関する情報をどのように入手しましたか。（複数回答可）



テレビや緊急地震速報に次いで、行政の公式LINE等のSNSから情報入手している方は約2割だった。

地震発生時にいた場所から避難したか

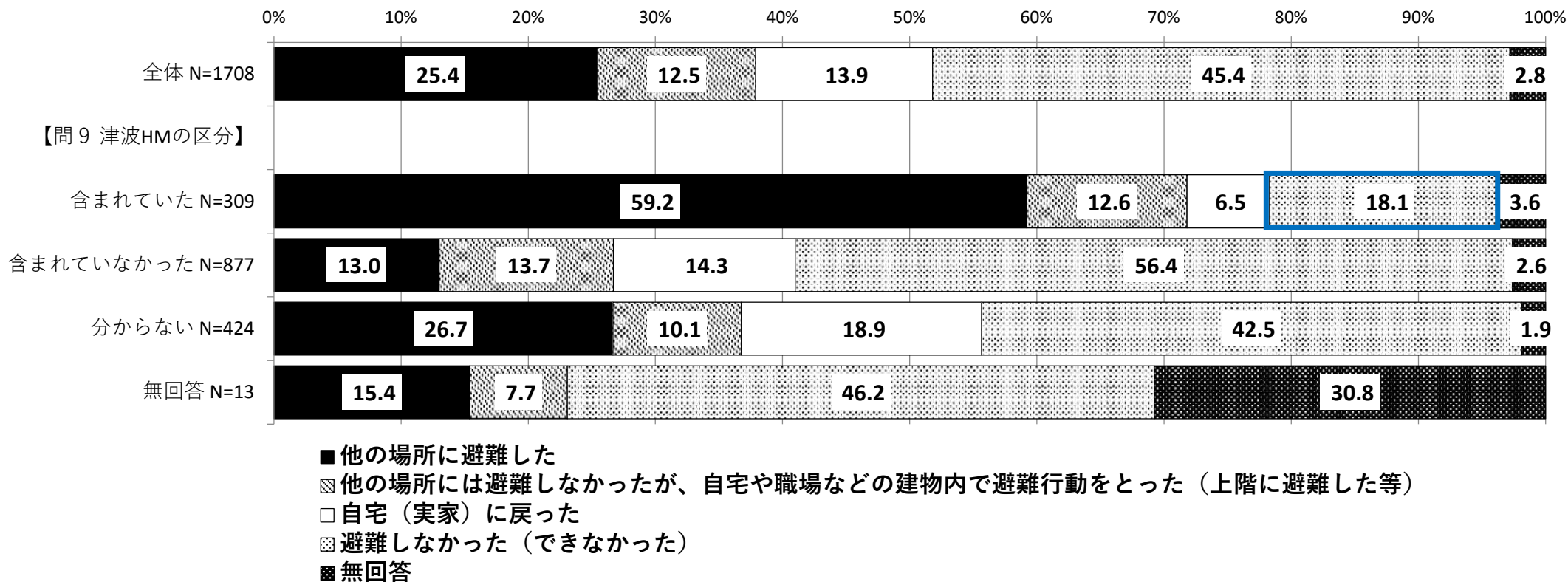
問12

あなたがいた場所からどこかに避難しましたか。

×

問9

あなたがいた場所は、津波ハザードマップで浸水が想定される区域や避難が必要な地域に含まれていましたか。



本来避難すべきだったが避難しなかった（できなかった）方は、2割弱だった。

避難しなかった（できなかった）理由

【「避難しなかった（できなかった）」人のみ】

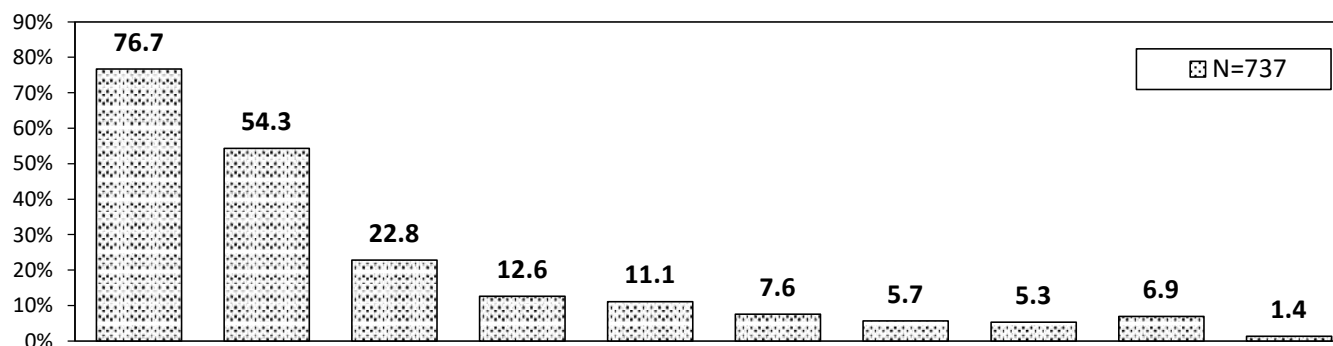
問22

あなたが避難しなかった（できなかった）理由は何ですか。
（複数回答可）



問9

あなたがいた場所は、津波ハザードマップで浸水が想定される区域や避難が必要な地域に含まれていましたか。



			今いる場所が安全だと思ったから	自宅に被害がなさそうだったから	近所の人（周りの人）たちも逃げないようだったから	避難すべきか分からなかったから	家族が大丈夫だと言ったから	自宅にペットがいたから（ペットと一緒にいたから）	津波警報等が入ってこなかったから	病気や身体が不自由で避難できなかったから（家族含む）	その他	無回答
全体		N=737	76.7	54.3	22.8	12.6	11.1	7.6	5.7	5.3	6.9	1.4
問9	含まれていた	N=56	71.4	51.8	16.1	14.3	10.7	7.1	14.3	14.3	5.4	-
津波	含まれていなかった	N=495	79.0	56.8	21.6	8.9	12.1	7.3	4.6	4.4	6.3	1.6
HMの	分からない	N=180	72.2	47.8	27.2	22.2	8.3	8.9	6.1	5.0	9.4	1.1
区分	無回答	N=6	66.7	66.7	50.0	16.7	16.7	-	-	-	-	-

津波ハザードマップの避難対象地域等に含まれる場所にいたが、避難しなかった（できなかった）方の多くは、その理由として「今いる場所が安全だと思ったから」「自宅に被害がなさそうだったから」を挙げた。

避難した理由

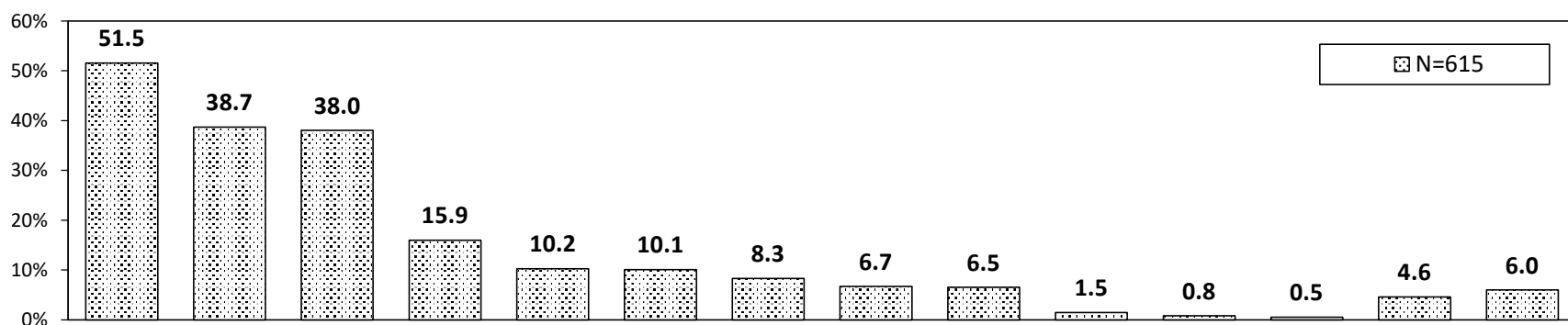
【「他の場所に避難した」 or 「建物内で避難行動をとった」人のみ】

問14

あなたはなぜ避難しましたか。（複数回答可） ×

問9

あなたがいた場所は、津波ハザードマップで浸水が想定される区域や避難が必要な地域に含まれていましたか。



			津波警報が出たから（津波がくると思ったから）	テレビやラジオで繰り返し避難が呼びかけられていたから	余震が怖かったから	家族や近所の人（周りの人）に促されたから	周りが避難していたから	災害がおきれば、いつでも避難すべきと考えていたから	自分がいた場所に被害が出て、その場に留まるのが危険だったから	夜間に避難するような事態を避けたかったから	自宅で夜を過ごすのが怖かったから	防災訓練で避難の練習をしていたから	水道等のライフラインが途絶したから	消防団員に促されたから	その他	無回答
全体		N=615	51.5	38.7	38.0	15.9	10.2	10.1	8.3	6.7	6.5	1.5	0.8	0.5	4.6	6.0
問9 津波 HMの 区分	含まれていた	N=222	72.5	42.8	25.7	18.0	11.3	7.2	8.1	6.3	8.1	1.8	0.9	0.5	4.5	2.3
	含まれていなかった	N=234	29.1	33.8	53.4	11.5	7.7	10.3	9.8	8.1	8.1	0.9	0.4	0.4	5.1	9.8
	分からない	N=156	55.8	40.4	32.1	19.2	12.8	13.5	6.4	5.1	1.9	1.9	1.3	0.6	3.8	5.8
	無回答	N=3	33.3	33.3	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-

津波ハザードマップの避難対象地域等に含まれていない場所にいた方のうち、約3割が津波を理由に避難した。

避難を開始したタイミング

【「避難しなかった（できなかった）」人のみ】

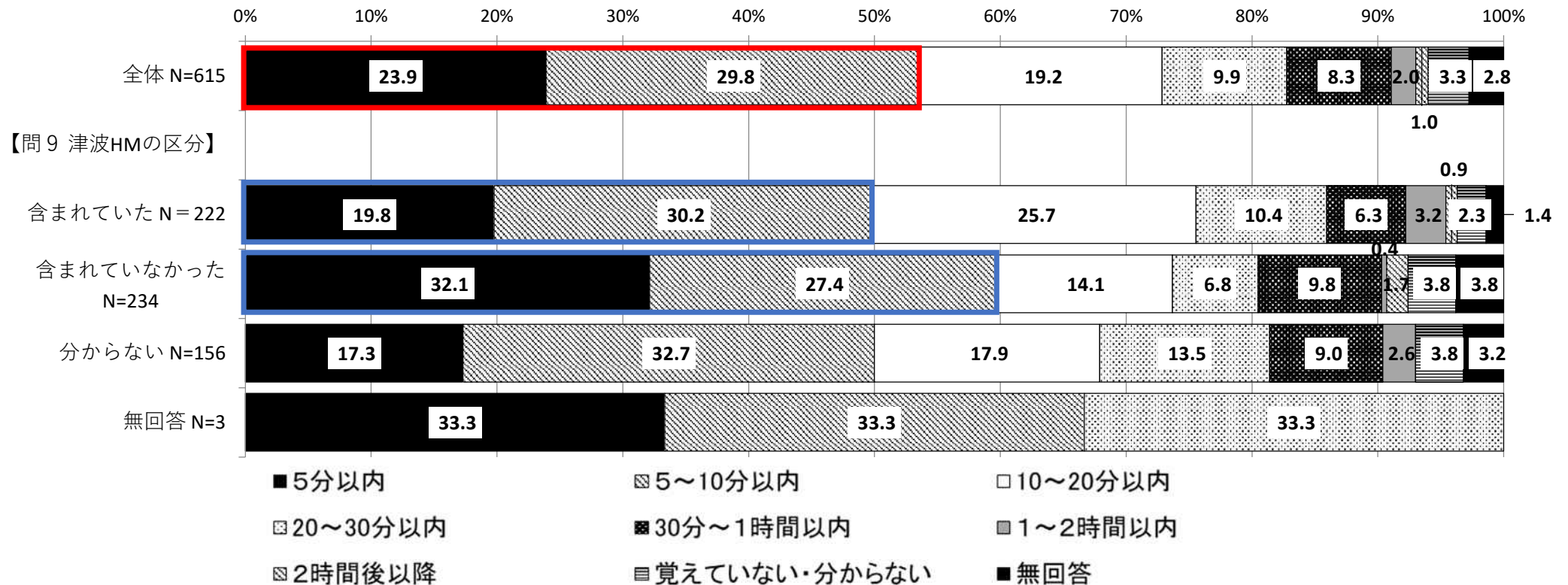
問13

あなたが避難しはじめたのは地震発生からどれくらい経ってからですか。（最初の避難について）

×

問9

あなたがいた場所は、津波ハザードマップで浸水が想定される区域や避難が必要な地域に含まれていましたか。

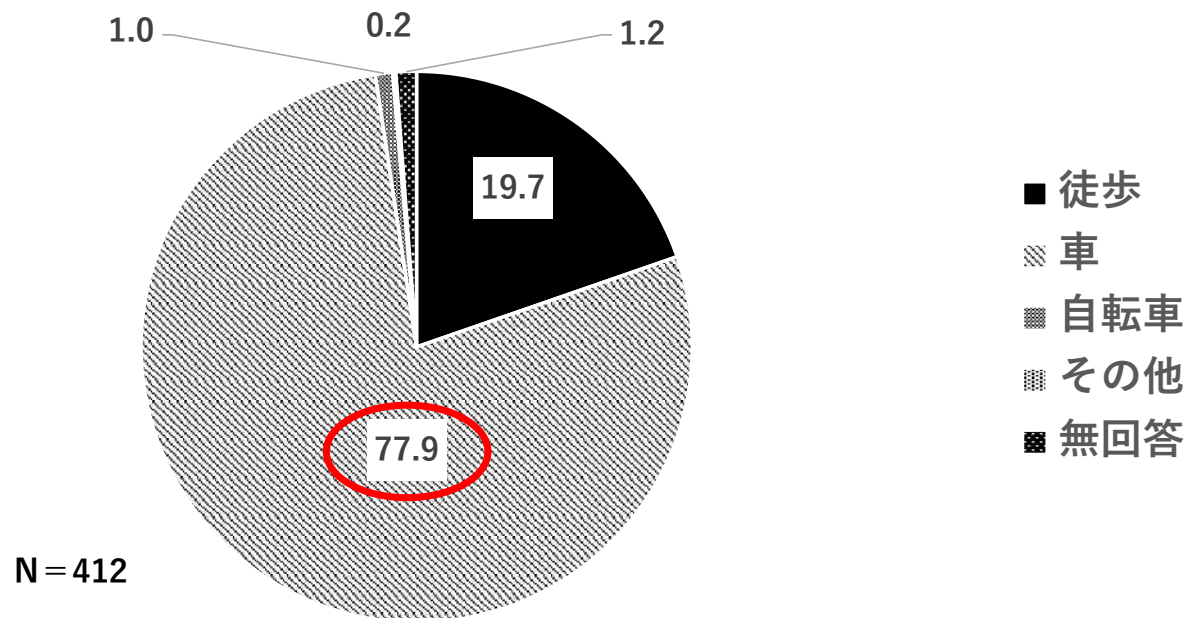


地震発生から『10分以内』に避難を開始した方は、全体の5割を超えた一方で、津波ハザードマップで避難が必要な地域等に含まれない場所にいたの方が、含まれる場所にいた方より初動が早い傾向が見られる。10

避難時の移動手段

【「他の場所に避難した」人のみ】

問16-1 あなたはどのように避難しましたか。

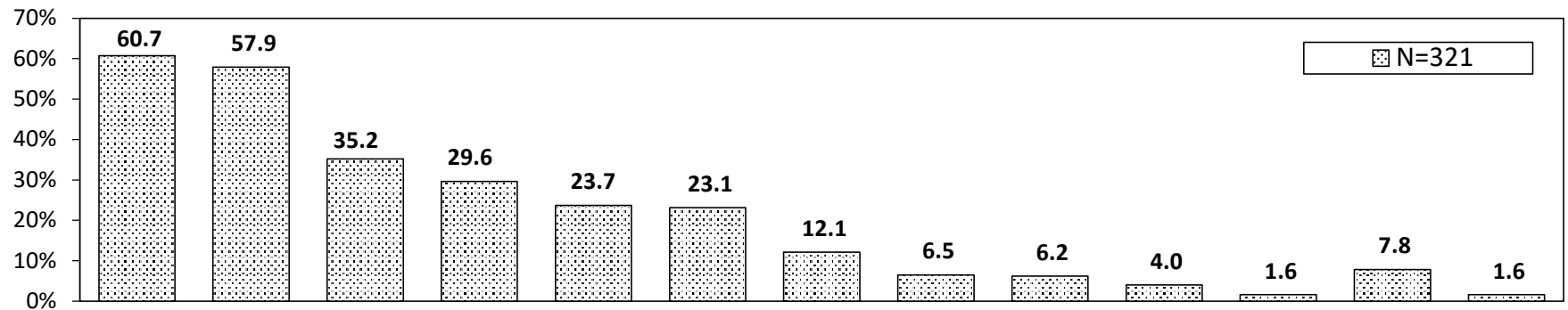


徒歩で避難した人は2割弱に留まり、8割近い方が車で避難した。

車で避難した理由

【「他の場所に避難した」人and「車で避難した」人のみ】

問16-3 あなたはなぜ車で避難しましたか。（複数回答可）



		車が一番早いと思ったから	車でないと遠くに避難できないと考えたから	万が一の場合に車中泊できると考えたから	子どもと一緒に避難しやすいから	荷物を運べると考えたから	普段の移動が車だから	病気や身体が不自由で車でないと避難できなかったから（家族含む）	地震発生当時、車に乗っていたから	外にいるときに津波がきたら危ないと思ったから	津波や家の倒壊から車を守りたかったから	歩くのが面倒だから	その他	無回答
全体	N=321	60.7	57.9	35.2	29.6	23.7	23.1	12.1	6.5	6.2	4	1.6	7.8	1.6

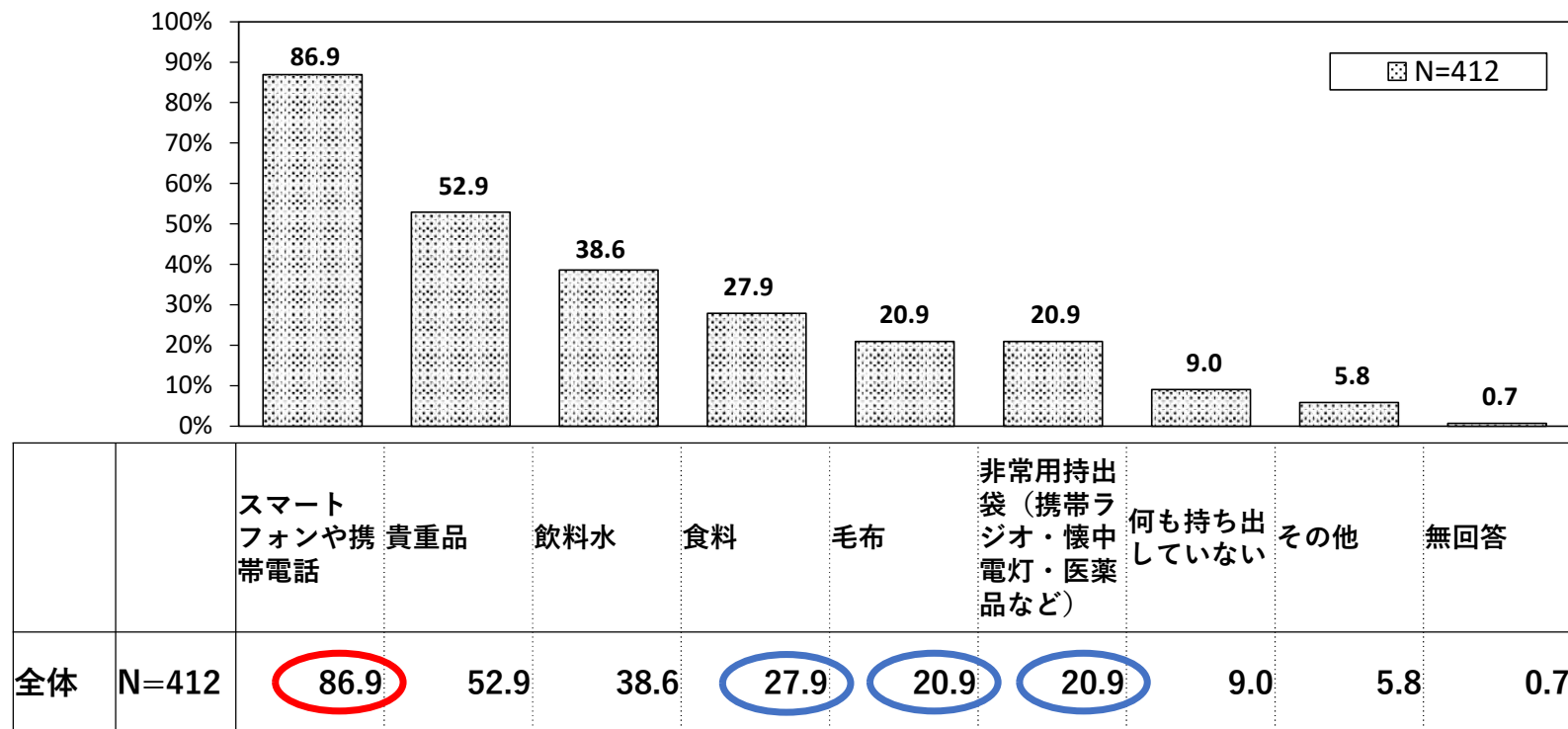
「車が一番早い」、「車でないと遠く避難できない」という回答が多くを占めた。

避難時に持ち出したもの

【「他の場所に避難した」人のみ】

問19

あなたは避難するときに何を持ち出しましたか。（複数回答可）



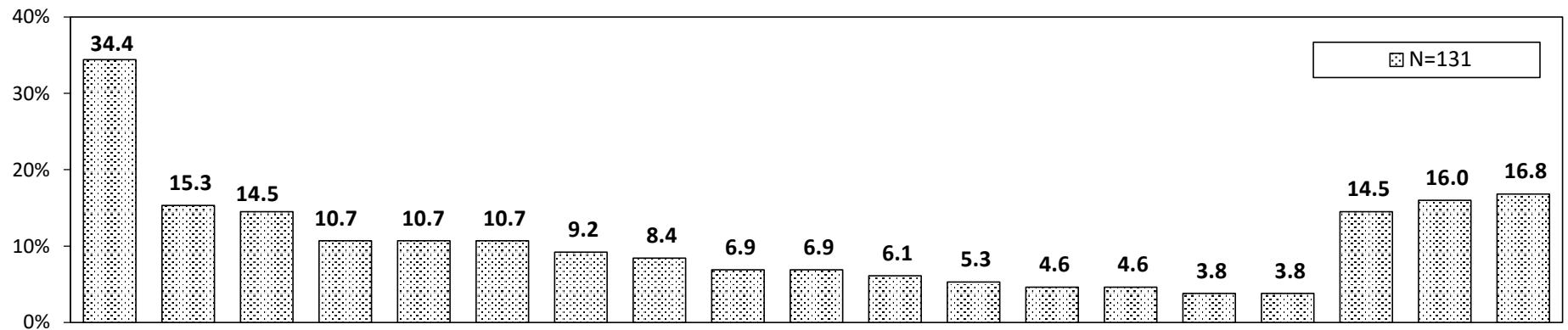
食料や毛布、非常用持出袋を持ち出した方は、2割台に留まった。

避難所で困ったこと

【「指定避難所に避難した」人のみ】

問24

あなたが避難所で困ったことは何ですか。（複数回答可）

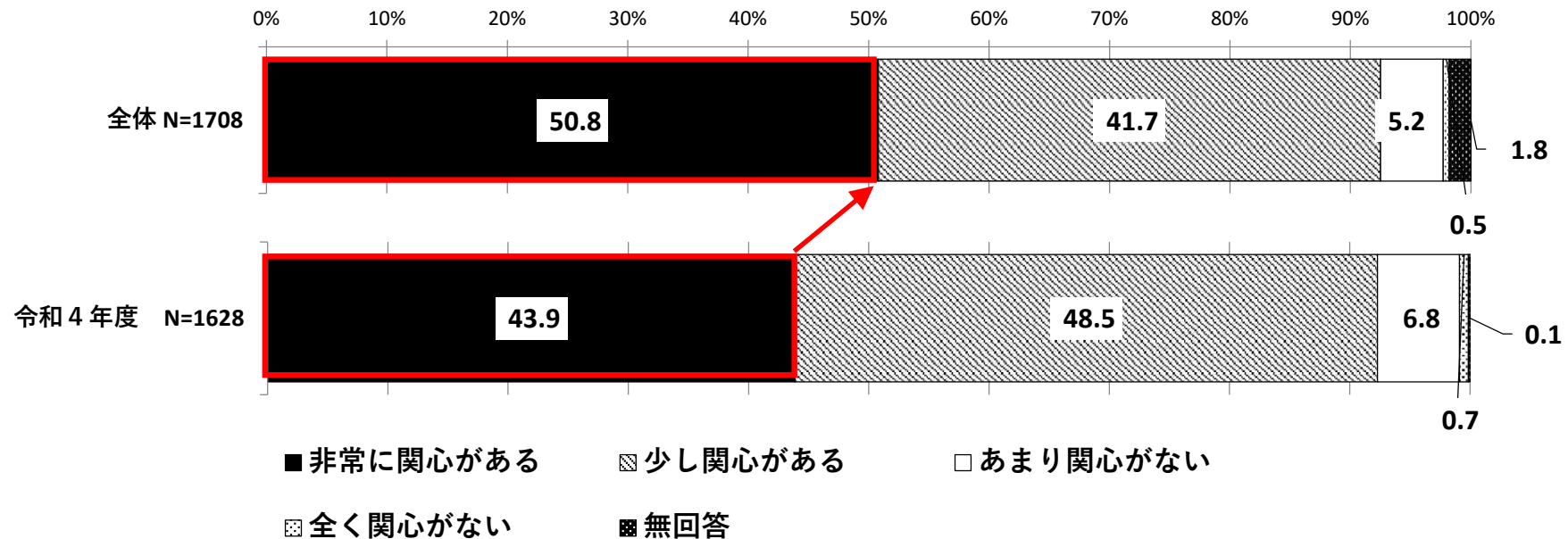


		寒かった	毛布等の生活用品が足りなかった	飲料水・食料が足りなかった	支援に関する情報が得られなかった	プライバシーが守られていなかった	高齢者、障害のある方などに配慮した物資が足りなかった	寝れなかった	トイレが使いにくかった（和式、汚い等）	狭かった	防犯対策が不安だった	断水で水が使えなかった	育児に必要な設備や物資がなかった	感染症対策が十分でなかった	女性に配慮した物資が足りなかった	トイレが使えなかった	ベットの預かり所がなかった	困ったことはない	その他	無回答
全体	N=131	34.4	15.3	14.5	10.7	10.7	10.7	9.2	8.4	6.9	6.9	6.1	5.3	4.6	4.6	3.8	3.8	14.5	16.0	16.8

元日の地震ということもあり、「寒かった」と回答した方が最も多く、次いで生活用品や飲料水・食料の不足が多く挙げられている（「困ったことはない」も同程度）。

大規模災害に対する関心

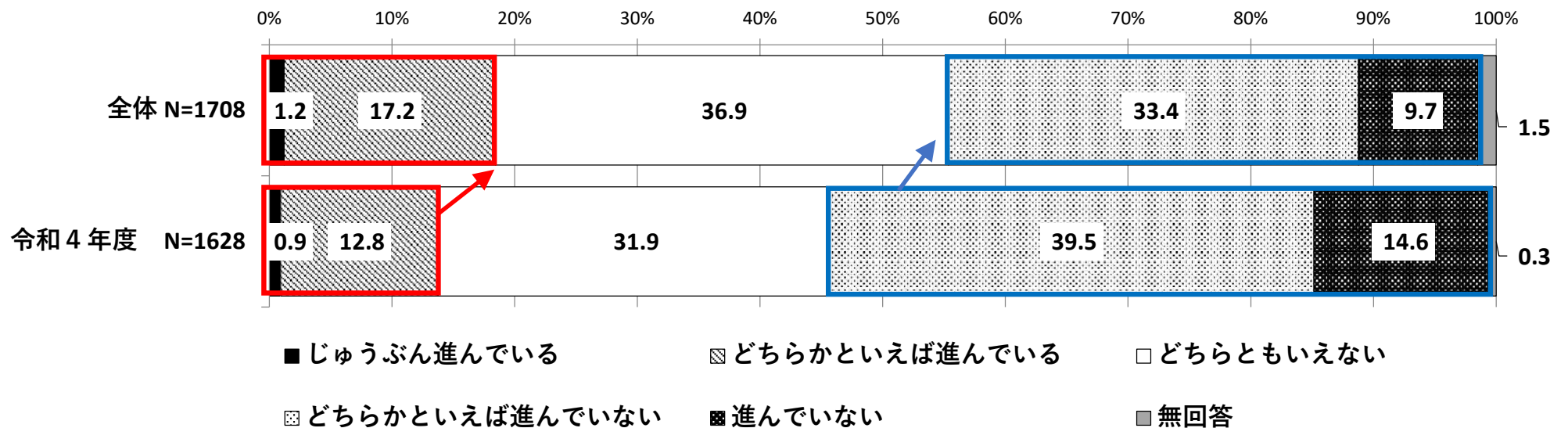
問32 あなたは、地震、豪雨、大雪などの大規模災害の発生に関心がありますか。



大規模災害の発生に『関心がある』方は9割を超えており、「非常に興味がある」と回答した方は、令和4年度の調査より約7ポイント増加している。

自身の防災対策

問33 あなたご自身の防災対策は進んでいると思いますか。



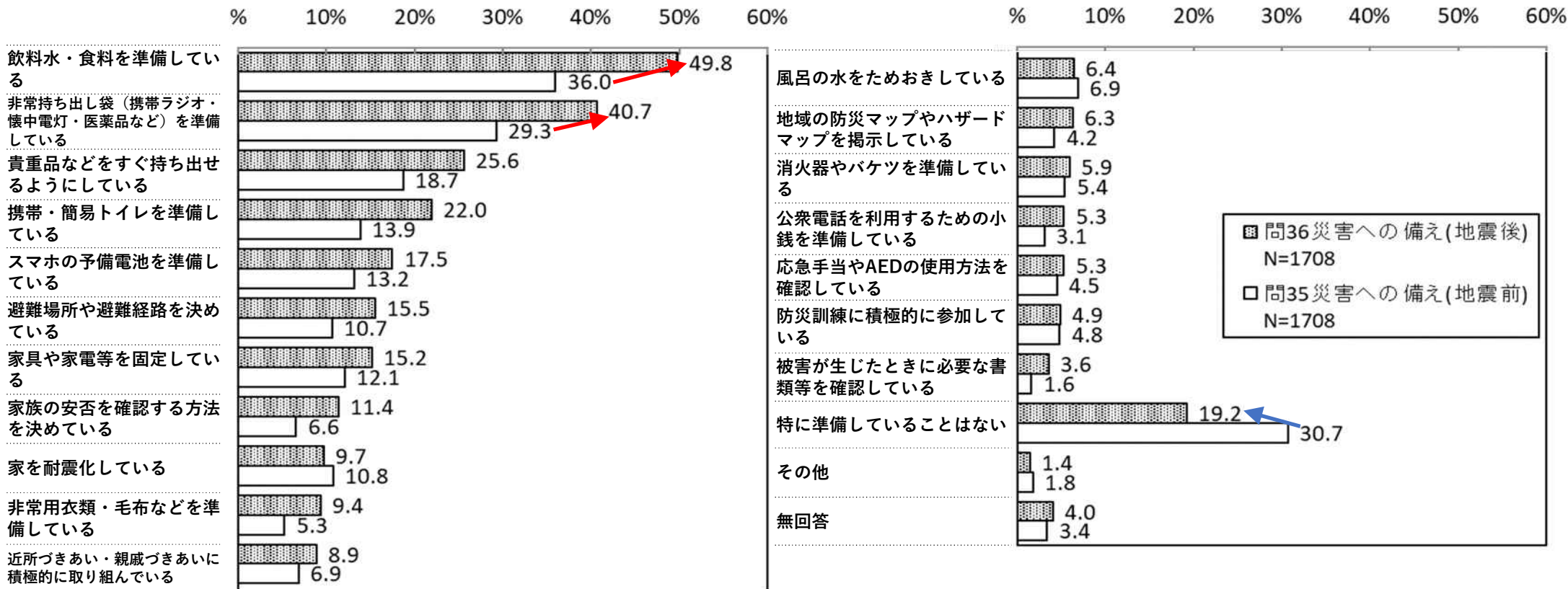
令和4年度の調査と比較すると、自身の防災対策が『進んでいる』と思う方は約5ポイント増加し、『進んでいない』と思う方は、11ポイント減少している。

災害への備え（地震前後の比較）

問35&36

<地震前後の比較>

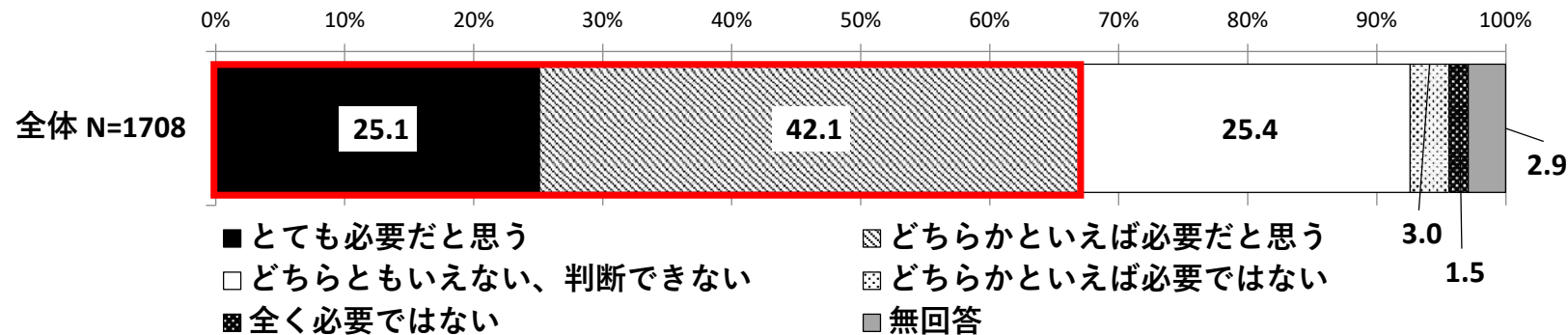
あなたが災害への備えとして取り組んでいる（いた）ものは何ですか。（複数回答可）



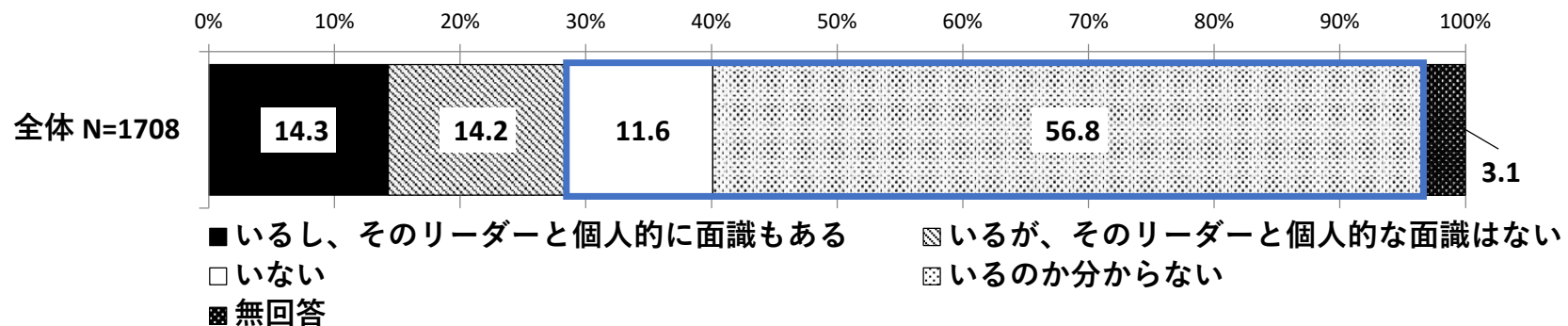
地震前後では、飲料水や食料、非常持出袋を準備し始めた方が大きく増加し、特に準備していない方は大きく減少した。

地域における防災活動のリーダーの必要性和認知度

問37 あなたの地域（町内・校区など）にとって、防災活動のリーダー的存在は必要だと思いますか。



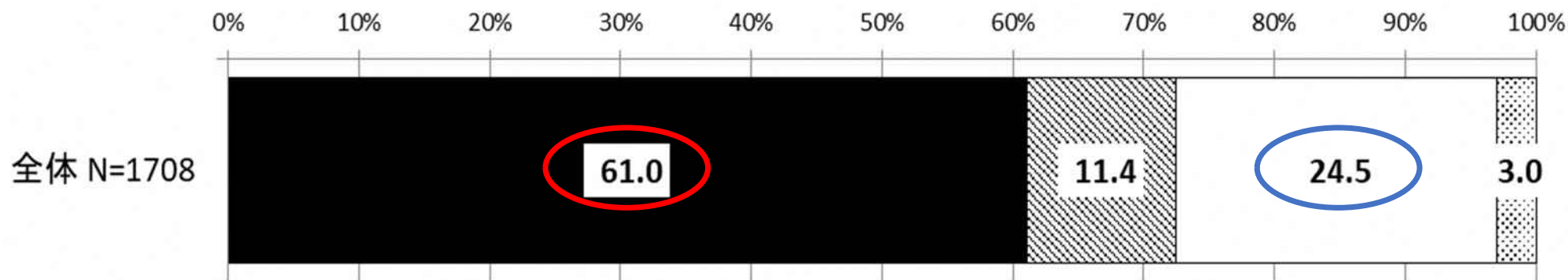
問38 あなたの地域（町内・校区など）には、防災活動のリーダーにあたるような方がいますか。



地域に防災活動のリーダーが必要だと思っている方は、約7割いる一方で、リーダーが「いない」、「いるのか分からない」という方が約7割に上る。

ハザードマップの認知度①

問41 あなたは自宅のある地域のハザードマップを見たことがありますか。



- 今回の地震が発生する前から見たことがある
- ▨ 今回の地震が発生した後に初めて見た
- 見たことがない
- ▤ 無回答

地震前からハザードマップを見たことがあった方は、約6割に留まり、地震後においても「見たことがない」と回答した方は約25%だった。

ハザードマップの認知度②

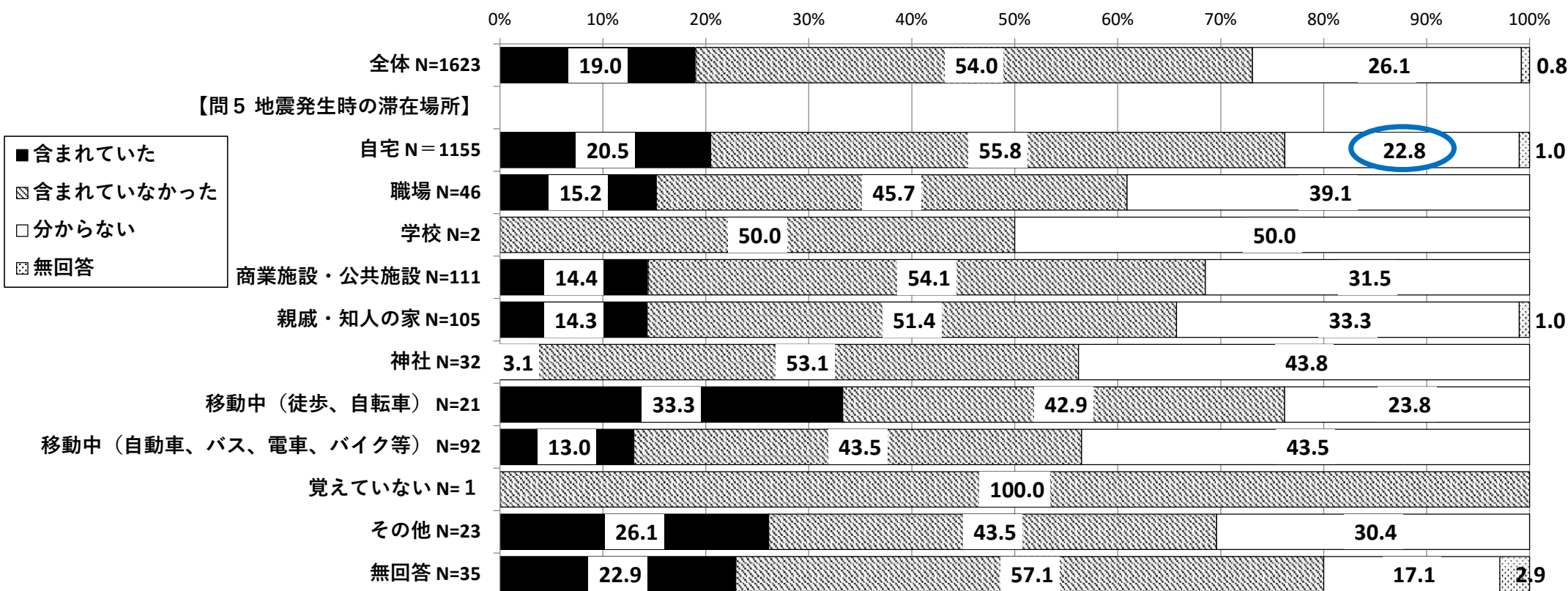
問 9

あなたがいた場所は、津波ハザードマップで浸水が想定される区域や避難が必要な地域に含まれていましたか。

×

問 5

あなたがいた場所はどこですか。



自宅について、津波ハザードマップで避難対象地域等に含まれているか分からない方は2割強だった。

避難所で過ごして良かったこと・課題①（自由回答抜粋）

問27

避難所で過ごした中で「良かったこと」や「課題」があれば教えてください。

【良かったこと】

- ・ ボランティアや消防団の方が、常に避難者に対して声かけを行っていた。
- ・ 避難所に多くの人と車が来て混乱していたが、交代で駐車場の誘導を呼びかけたところ、多くの人が協力し、災害の時でも助け合えることが改めて分かった。
- ・ 周りに人がいると安心だった。余震等の不安が解消された。
- ・ 物資も足りていて、スペースも確保されていた。
- ・ 飲料水や暖房器具の配布が早かったこと。
- ・ 同じように避難してきた人と情報共有することができた。
- ・ 授乳のための個室を用意してくれた。途中、育児用品が足りているかも聞きに来てくれた。
- ・ 避難所が中学校だったが、校内放送により在校生やOBに協力要請がかかり、それに応じて若い方々が手伝ってくれた。

避難所で過ごして良かったこと・課題②（自由回答抜粋）

【課題】

- ・避難所への入館に手間取った。避難してきた人で、入館できる仕組みがあれば良い。
- ・リーダーのような仕切る方がいなかった。
- ・避難解除で帰宅して良いタイミングが分からなかった。
- ・逃げてくる人数がだいたい把握できるはずなのに、初日の夜にすでに物資がないというのは、実際には行政も津波がくると想定していなかったのでは？
- ・避難所が寒かった。
- ・避難所の指定が不足しているのでは。
- ・みなさんの危険意識が全くまだまだ足りていない。避難所まで来るのがゆっくりしすぎる、どう考えても車で避難するのは渋滞するのに車で避難する人ばかりいた。
- ・情報がなくて不安な思いをした。
- ・全ての人に物資が届いていなかった。

行政に期待すること①（自由回答抜粋）

問30 日ごろの防災や災害が発生したときの対応について、行政に期待することがあれば教えてください。

【検証項目②】 広報活動

- ・ 適切な避難ルート情報を適宜発信してほしい。
- ・ 正確な情報を様々な方法で迅速に伝えてほしい。
- ・ 防災行政無線がうるさい。（聴こえないとの意見もあり）
- ・ 健康な人ばかりでは無いので、目や耳に障害のある人達にも分かりやすい周知が必要。
- ・ SNSで最新の情報を流してほしい。テレビなどで情報は得られるが、自分の地域ピンポイントの被害状況や災害支援が知りたい。

【検証項目③】 避難行動

- ・ 災害によっては避難先が変わる可能性があるが避難先は1つしか指定されていない。状況に応じた避難先や避難方法を提示してほしい。
- ・ 高齢者、足腰の悪い家族の避難体制の強化

行政に期待すること②（自由回答抜粋）

【検証項目④】避難所開設・運営

- ・ ペット同伴ができる避難所の設置
- ・ 速やかに避難所を開設し、情報を流すこと（開いていなかった小学校もあった）
- ・ 避難所が地震時、自動で開錠できるよう、早期の整備
- ・ プライバシーなどが取れた避難場所の確保
- ・ 避難所の衛生管理
- ・ 指定避難所が、キャパシティオーバーであると感じたので、実情に沿った防災対策をお願いしたい。

【検証項目⑤】物資の備蓄・支援

- ・ 避難場所である程度の生活ができるよう水や食物がスムーズに配送できるようにしてもらいたい。
- ・ 備蓄水、食料の確保をしてほしい。
- ・ トイレと電源の確保
- ・ おむつや離乳食の備蓄

行政に期待すること③（自由回答抜粋）

【検証項目⑧】 県・市町村・関係機関の連携

- ・ 消防団での活動で指揮系統が曖昧だった。マニュアルを整備して分団をより上手く使うべき。
- ・ 自治振興会や地区の防災士と連携、協力すべき。

【検証項目⑪】 事前の備え

- ・ 行政に頼ることより、県民がやるべき事を意識付けること
- ・ 日頃から何をどう備えておくべきか、物理的な備えや心構えを分かりやすく頻繁に広報してもらいたい。
- ・ 高齢者や学校での防災学習をしてほしい。
- ・ 町内単位で災害発生時に対応できる人等を育成し災害に対する知識を広める活動を積極的にしてほしい。
- ・ 今回の地震において学んだ教訓とした都市づくりや倒壊しない建物を設置することが大切。

【検証項目⑭】 行政の経験蓄積・共有

- ・ 富山県民は防災意識が他の都道府県と比べると大変低い。この機会に防災、災害に対する備えを強化し、他の都道府県と連携すること

行政の対応で良かったこと（自由回答抜粋）

問31

今回の地震における行政の対応で、良かったことがあれば教えてください。

- ・避難所に市役所職員が来てくれたこと。避難所においてのリーダー的役割を果たしていただけた。
- ・避難所が早期に開設された。
- ・LINEでの情報発信が的確だった。
- ・地域の声を聴き、出来る限り寄り添って対応してくれたこと
- ・翌日には給水車がきた。
- ・片付けゴミの収集が予想より早く助かった。
- ・被災された方々を病院や施設、ホテルに受け入れたこと
- ・1月1日に発生した地震にもかかわらず、多くの行政の方々が出勤し親身に対応されていた。